



現代日本語におけるオノマトペの用法解明と中国人
日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言
—コーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐって—

張, 晶鑫

(Degree)

博士 (学術)

(Date of Degree)

2020-03-25

(Date of Publication)

2021-03-01

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第7648号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1007648>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



論文要旨

氏名 張 晶鑫
専攻 グローバル文化
指導教員氏名 石川慎一郎 教授

論文題目 (外国語の場合は日本語訳を併記すること)
現代日本語におけるオノマトペの用法解明と中国人日本語学習者のためのオノマトペ指導に対する提言ーコーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐるー

論文要旨 〔要旨〕

日本語教育が世界に広まりつつある中で、初中級レベルだけでなく、上級・超上級レベルを目指す学習者も増え続けている。しかし、従来の日本語教育では、語彙についていうと、名詞・動詞・形容詞・形容動詞・助詞といった中核的品詞の指導にとどまっており、上級・超上級レベルの学習者が求める「生きた」日本語を読み書きするための語彙は十分に指導されていない。この一例が日本語オノマトペである。本論文は、日本語オノマトペの諸相を科学的に解明し、得られた知見をふまえ、中国人日本語学習者を対象としたオノマトペ指導に対して具体的な提言を行うことを目指す。本論文は全3部、全14章で構成される。まず、第I部では研究の枠組みを説明する。序章において、本論文の位置づけと研究意義と重要性を述べる。その後、第2章では、研究対象とするオノマトペの名称、定義、分類及び一般語彙との関連性を概観する。次に、日本語学・日本語教育学におけるオノマトペの位置づけとオノマトペ研究の現状を概観する。第3章では、従来のオノマトペに関する先行研究を、音韻的・形態的・統語的・意味的特徴および使用特性の解明を目指す日本語学の観点からなされた研究と、重要オノマトペの選定、オノマトペの教材収録調査、学習者のオノマトペ使用実態調査を目指す日本語教育学の観点からなされた研究、の2つに分けて整理する。第4章では、本論文で使用するデータ、調査対象とするオノマトペ及び使用する統計手法を体系的に説明する。

第II部では、オノマトペの言語的特性を解明するために、オノマトペを多角的に分析する。オノマトペについて議論しようとする場合、(1)重要語彙項目、(2)音韻特徴、(3)形態特徴、(4)統語特性、(5)意味特性、(6)使用状況などについて正確に把握する必要がある。そこで、第II部に含まれる6つの章でこれらの問題を順に論じていく。第5章では、母語話者の内省判断の集大成とされる辞書の体系的な調査と大規模コーパスの調査という2つの方法論により、日本語学および日本語教育にとって特に重要とされるオノマトペの選定を行う。第6章では、オノマトペの音韻的特徴をモーラ数、音素の種類、音素の結合パタンの3つの観点からとらえ、一般語彙と比較しながら、オノマトペの音韻的特徴の解明を目指す。第7章では、オノマトペの形態特性に関して、既存のオノマトペ形態の新しい分類枠組みの問題点を明らかにした上で、本論文におけるオノマトペ形態の新しい分類枠組みの提案と、学習者に優先的に提示すべき形態の特定を行う。あわせて、先行研究で指摘された個々のオノマトペ標識の持つ意味合いが母語話者の内省判断で支持されるかどうかの検証も行う。第8章では、オノマトペの統語特性に関して、オノマトペの後接要素の特性の解明、オノマトペが

取りうる様々な品詞の中で特に重要な動詞用法に注目し、動詞化重要語の選定と動詞化の説明モデルの構築、スルと結合して動詞になったスル型オノマトペ動詞の動詞としての自立性の検証を行う。第9章では、オノマトペの意味特性を探るため、多義オノマトペの分析(「ぐっと」)、類義オノマトペ間の比較(「しっかりと」/「きちんと(と)」/「ちゃん(と)」)、オノマトペと類義一般語の比較(「だんだん」/「徐々に」「次第に」)の3点を行い、望ましい辞書記述の提案を行う。第10章では、オノマトペの使用環境と使用実態の関係性に注目し、コーパスに含まれる様々な内容ジャンルごとにオノマトペの出現傾向がどのように変化するか、話し手の性別や年齢といった属性によってオノマトペ使用がどのように変化するかを概観する。第III部では、以上で明らかになった知見を日本語教育に生かす方向を考えるため、中国人日本語学習者のオノマトペ使用の問題点を探り、その改善の方策を提示することを目指す。第11章では中日両言語におけるオノマトペの対照を行う。対照分析において重要になるのは、1つのオノマトペが何種類の中国語に訳し分けられているかということである。本論文では「枝分かれ率」という指標を独自に考案し、中国人日本語学習者にとってのオノマトペ習得難度を予測する。第12章では使用量・多様性・使用語・誤用の点で、中国人日本語学習者は日本語母語話者や他の学習者と比べ、どのような特徴を示すのか、習熟度の異なる中国人日本語学習者はそれぞれどのような特徴を示すのかを横断学習者コーパスを用いて調査し、中国人日本語学習者のオノマトペ使用の特性を明らかにする。第13章では第12章の横断学習者コーパス分析で得られた知見を新たな観点から確認するため、新たに縦断学習者コーパスを使用し、学習段階の進展に伴ってオノマトペ使用傾向や誤用傾向がどのように変化していくかを実証的に観察する。第14章では本論文で行った調査を章ごとに整理し、教育的応用と課題を示す。

論文審査の結果の要旨

氏名	張 晶鑫		
論文題目	現代日本語におけるオノマトベの用法解明と中国人日本語学習者のためのオノマトベ指導に対する提言—コーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐって—		
判定	合格 ・ 不合格		
論文チェックソフトによる確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認 <input type="checkbox"/> 未確認 理由：		
審査委員	区分	職名	氏名
	委員長	教授	大和 知史
	委員	教授	石川慎一郎
	委員	教授	柏木 治美
	委員	統計数理研究所准教授	前田 忠彦
	委員		
要 旨			
別紙のとおり			

(概要) 学位申請者・張晶鑫氏の論文「現代日本語におけるオノマトベの用法解明と中国人日本語学習者のためのオノマトベ指導に対する提言—コーパス言語学の教育的応用の可能性をめぐって—」は、日本語学習者にとって習得が困難であるとされる日本語オノマトベを対象として、コーパス言語学の分析手法に基づく分析を行い、その用法を解明し、日本語教育への応用の可能性を論じたものである。

(意義) 日本語学習者の立場から見た場合、オノマトベの意味理解や産出には大きな困難が伴う。日本語学の先行研究でも、オノマトベの範囲や意味・機能の説明には一致していない部分が多く、大規模言語データの記述分析をふまえたオノマトベの範囲確定・用法解明・教授システム開発が広く待たれていた。張氏の研究は、中国人日本語学習者、とくに、中上級の学習者を対象とする指導を念頭に置きつつ、現代日本語における重要オノマトベの特定、多角的な観点から現代日本語における重要オノマトベの用法の解明、学習者の実際のオノマトベ使用特性の考察、中国人日本語学習者のためのオノマトベ指導システムの開発の4点を主たる目的としており、日本語学・日本語教育学の両面において高い研究意義を有すると考えられる。

(独自性) 張氏の研究は、従来の内省重視型言語研究に加えて幅広いコーパス調査を行うことで、現代日本語におけるオノマトベの用法を客観的に解明しようとしており、加えて、コーパスから得られた数值的事実の記述にとどまらず、それらを多様な統計手法を使ってモデル化し、言語事象を数理的に把握しようとしている。さらに、コーパス調査から得られた知見に基づき、日本語学と日本語教育学を連結させ、実際の学習者が使用できるオノマトベ指導教材の開発を目指そうとしている。氏の研究はコーパス言語学の分析手法を基盤とするものであるが、コーパス分析の手法だけでは見落としがちなオノマトベの言語学的特性や学習者の内面にも目配りをした分析デザインを組み上げている点に独自性が認められる。氏の研究は、コーパス言語学的分析と、日本語教育的な考察をうまく融合させたものと言える。

(論文構成) 本論文は、全体で459ページ(参考文献含む)に及び、全3部、全14章で構成される。まず、第1部では研究の枠組みが説明される。序章では、論文の位置づけと研究意義と重要性が述べられる。第2章では、研究対象とするオノマトベの名称、定義、分類及び一般語彙との関係が概観される。また、日本語学・日本語教育学におけるオノマトベの位置づけとオノマトベ研究の現状が概観される。第3章では、日本語学の観点からなされた研究と、日本語教育学の観点からなされた研究に大別した上で、先行研究が整理検討される。第4章では、使用するデータ、調査対象とするオノマトベ及び使用する統計手法が説明される。

第II部では、(1)重要語彙項目、(2)音韻特徴、(3)形態特徴、(4)統語特性、(5)意味特性、(6)使用状況の各点について、オノマトベの言語的特性の調査と考察が行われる。第5章では、母語話者の内省判断の集大成とされる辞書の体系的な調査と大規模コーパスの調査という2つの方法論により、日本語学および日本語教育にとって重要なオノマトベが選定される。第6章では、オノマトベの音韻的特徴をモーラ数、音素の種類、音素の結合パターン、の3つの観点からとらえ、一般語彙と比較しながら、オノマトベの音韻的特徴が論じられる。第7章では、オノマトベの形態特性に関して、既存のオノマトベ形態の分類枠組みの問題点を明らかにした上で、オノマトベ形態の新しい分類枠組みの提案がなされる。第8章では、オノマトベの統語特性に関して、オノマトベの後接要素の特性の解明、スル動詞化の説明モデルの構築が行われる。第9章では、オノマトベの意味特性を探るため、多義オノマトベ分析(「ぐっと」)、類義オノマトベ比較(「しっかり」/「きちん(と)」/「ちゃん(と)」)、オノマトベと類義一般語比較(「だんだん」/「徐々に」「次第に」)がなされ、新しい辞書記述の提案が行われる。第10章では、オノマトベの使用環境と使用実態の関係性に注目し、ジャンルや話者属性によってオノマトベの使用状況に違いがあるかどうか議論される。

第III部では、中国人日本語学習者のオノマトベ使用の問題点を探り、改善の方策を提示することが試みられる。第11章では日本語原文の中国語訳において、1つの日本語オノマトベが何種類の中国語に訳されているかを「枝分かれ率」という独自の指標で計量化し、個々のオノマトベにつき、中国人日本語学習者にとっての習得難度の予測がなされる。第12章では横断型学習者コーパスを用い、使用量・多様性・使用語・誤用の点で、中国人日本語学習者によるオノマトベ使用特性の抽出と議論がなされる。第13章では縦断型学習者コーパスを使用し、学習段階の進展に伴うオノマトベ使用傾向や誤用傾向の変化が分析される。最後に、第14章では本論文で行った調査を章ごとに整理し、教育的応用への提言がなされる。

(総合評価) 以上で見てきたように、本論文は、従来の日本語学・日本語教育学において十分な光が当てられていなかったオノマトベについて、その言語的・用法的特性はもとより、習得や教授までを射程におさめた包括的記述を目指した労作であり、日本語オノマトベの用法記述と教授について重要な知見を示した価値ある業績であると結論できる。よって、本審査委員会は、全員一致で、学位申請者である張晶鑫氏に、博士(学術)の学位を得る資格があると認める。

なお、申請者はこれまでに学外の学会で16回の研究発表を行い、学術論文等7編を発表している。また、語彙研究会より、業績審査を経て、研究助成金(公益信託田島誠堂語彙研究基金助成金)を獲得し、2020年1月には学術振興会から優れた大学院博士課程学生を顕彰する「育志賞」を受賞している。